

一般社団法人 薬学教育協議会

# 令和2年度実務実習の良い事例集 (項目別)

－ 施設について －

(令和2年2月25日～令和3年2月14日)

---

# 目 次

## 薬局実習

薬物療法の実践 .....	3
在宅医療における薬物療法の実践 .....	3
医療連携の体験 .....	4
地域包括ケアの実践 .....	4
充実した実習環境と指導体制の構築 .....	5

## 病院実習

薬物療法の実践 .....	8
医療連携の体験 .....	8
充実した実習環境と指導体制の構築 .....	8

## 凡 例

◇ 大学・学生側から見た良い事例を集めました。

◇ 大学名：非公開

◇ 記載事項：

- 区分：病院、薬局
- よい実習を行った各施設の特徴（見出し）
- 具体的な説明（概要）及びまとめ

◇ 実務実習実施日程（原則）

第Ⅰ期：令和2年2月25日（火）～5月10日（日）

第Ⅱ期：令和2年5月25日（月）～8月9日（日）

第Ⅲ期：令和2年8月24日（月）～11月8日（日）

第Ⅳ期：令和2年11月24日（火）～令和3年2月14日（日）

\*令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、状況に応じて日程を変更して実施しております。

**【お薬手帳を活用した疑義照会】**

実習生がお薬手帳と薬局で管理している薬歴を確認したところ、3 日前に別の医療機関で全く同じ薬剤が処方されていることを発見した。患者に確認後、実習生自身が疑義照会を行うことで重複投与を回避することができ、その重要性について理解を深めることができた。

**【小児薬物療法への介入】**

実習生が小児薬用量の超過や、薬歴から禁忌や副作用歴があることを発見し、疑義照会により処方提案を行うことで副作用を回避することができ、その重要性について理解を深めることができた。

**【服薬指導実践重視の実習】**

初日から服薬指導をさせていただき、実習期間の 11 週間で 170 回ほど服薬指導をし実践・経験を積むことができた。患者と接する機会が他の薬局施設より多かった。

**【一人の在宅患者さんに深く関わりながら実習を行った例】**

- ・臨床対応能力が身に着けられることを目的に、実習実施計画の段階から継続的な医師との在宅訪問同行を計画されており、実際に毎週同一の患者のもとへ訪問させていただいた。その中で、前週に投薬した薬の効果確認や、経管処置患者への薬剤投与の歳に起こる問題や必要な技術など様々なことを自分の目で確認することで深い理解につなげることができた。また、報告書で医師に伝えていた内容について次の訪問同行前に医師から相談があり、提案に基づいて処方薬検討が行われ、患者さんの治療への貢献を体験させることができた。
- ・今後、より臨床対応能力を身に着けた薬剤師が必要となる中で、同一患者さんへの継続的な在宅訪問を通して、患者さんの状態を正しくアセスメントして投薬後のフォローアップをしていくことの重要性とその技能を学んだ。また、そのフォローアップに当たっては積極的に他職種と連携していくことが大切であることを実感することができた。

**【在宅における薬局業務への参画】**

生後 2 ヶ月の双子の赤ちゃんや認知症の患者の在宅訪問があり、机上では学べないことを学ぶ機会を得た。病気にかかっている患者さんの気持ちを知ることができた。以前から継続的に使用している薬の使用目的を知らない患者さんや保管方法が違っている患者さんがおられ、薬剤師による定期的な確認の必要性を理解できた。

**【薬剤師の在宅業務の一連の流れの学習】**

1 週目で在宅業務に参加させていただき、実習の半ばには調剤から投薬、薬歴や報告書の作成まで、

在宅における薬剤師の一連の業務の流れを学び、将来、実習生が薬剤師として医療現場でどのように関わっていきたいか考えるきっかけにもなった。

### 【在宅医療におけるバイタルサインチェックの実践】

訪問した患者宅にて、実習生が体温、脈拍、血圧、動脈血酸素飽和度（SpO<sub>2</sub>）の測定や食事・排泄・睡眠状況等の確認をおこない、担当医師やケアマネージャーへの報告書作成を体験することによって、在宅における薬剤師の役割について理解を深めることができた。

### 【在宅医療】

在宅患者宅への訪問薬剤管理指導に同行し、問題点を考えて服薬支援を行った。

## —医療連携の体験—

### 【病院との連携への参加】

病院との話し合い・カンファレンスなどの薬局・病院間の連携活動に実際に参加することにより、病院・薬局間での多職種連携を体験することができた。

## —地域包括ケアの実践—

### 【地域支援業務の繰り返しの実践機会の提供】

- ・実習期間中、地域支援業務に係る各実習項目について、単発の実施で終わるのではなく、繰り返し実践する機会を与えていただいた。学校薬剤師業務では、新型コロナウイルス感染症対策のために手洗いの重要性を啓発として、校内放送による発表の機会を与えていただいた。後日、同学校へ環境検査に同行し、その際に実習生が直接、自身の発表に対する教員や生徒からの良い反響を確認することができた。また、在宅業務では同患者に対して隔週の訪問を行うことで、患者さんとの自然な会話をする中でその患者で注意して確認すべき体調の聴き取りや、患者に合わせた要約カレンダーのセットが出来るようになった。
- ・地域支援業務のそれぞれの項目について、単発ではなく、繰り返し継続して関わることで、自身が薬剤師としてどのように行動すべきか、またその結果患者や地域住民にどのように貢献できるのかを実感することで、薬剤師としての任務について理解が深まった。

### 【地域がんサロンにおけるがん患者・家族に対する薬学ケアの実践】

指導薬剤師とともに地域がんサロンに参画し、患者・家族に対する薬学ケアに参画するとともに、他の医療職からスピリチュアルケアを含めた患者指導を学んだ。

（第Ⅰ期は、COVID-19のため開催されなかったが、第Ⅱ期において実施）

### 【在宅等地域包括ケアにおける薬局業務への参画】

自宅、施設での在宅業務への参画、地域ケア会議、への同席等、地域包括ケアにおける薬局と他の医療従事者との地域チーム医療の重要性を認識し学ぶことができた。

### 【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

幅広い地域の施設、居宅への訪問、学校薬剤師業務への同行、また地域ケア会議への参加などを通して多くの職種の方との連携の体験・見学、他店舗で行っている漢方薬調剤も実践することができた。

### 【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

コロナ禍の薬局実習であったが、指導薬剤師の工夫により、介護施設や老人ホーム、自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域包括ケアにおける薬局の重要性を体感することができた。

### 【地域医療】

離島の診療所に派遣される薬剤師に同行し、離島医療における薬剤師の役割を理解し、問題点や解決策についても考察することができた。

## —充実した実習環境と指導体制の構築—

### 【患者の立場に立った医療の実践と混乱する医療現場で実習する学生への配慮】

- ・当該施設では、かかりつけ薬局として、新型コロナウイルスの感染拡大が問題となったときに、薬剤師として何をすべきかを、学生と共に考えてくださった。そして、独居で困っている患者さんや不安を抱える患者さんに対して、薬剤師がこの感染症に関連する不安や薬に関する相談に応じるべきであるとして、積極的な患者さんの状況確認と情報収集活動を行い、対処に当たられた。未知の感染症による医療の混乱と自粛生活のときだからこそ、薬剤師が地域医療に貢献しなければならない取り組みを、学生は実際に見て、学ぶことができた。また、緊急事態宣言によって、自宅学習となった学生に対し、Web システム上の指導に留まらず、常に電話連絡を取り、体調管理や学習の進捗状況について十分な確認ときめ細かい指導をいただいた。実習終了後も、不足した実習内容を補うために、地域薬剤師会へ追加実習について働きかけをしていただいている。
- ・感染拡大で混乱する医療の現場において、指導薬剤師の先生から、学生の健康を気遣い、不十分となる実習を出来る限り補う配慮をいただいたため、学生は、多くの学びを得ることができた。特に、様々な状況下で、薬剤師として、どのように患者さんに向き合い、どのような患者目線の医療を提供しなければならないのかを理解することができたことは、将来の医療を担う薬剤師としての自覚を高める貴重な機会となった。

### 【個々の実習生に即したきめ細やかな実務実習指導】

- ・実習終了後、学生は視野を広げ、自らの考えをもって、何事にも前向きに取り組むようになり、著し

い成長を認めたので、当該学生の指導教員より推薦があった。実習施設では、各学生の関心のあること（今回、学生は OTC についてまとめている）から実習をスタートし、学ぶ過程での気づきを重視した指導によって、学生は自信を持ち、その成果は、医療の現場においても十分役立つ内容にまで高めていただいた。個々の学生に即した丁寧な指導をいただくことで、学生は患者さんに信頼され、医療で求められる薬剤師を目指し、引き続き自己研鑽に励む決意を持って実習を終了することができた。

- ・ 研究室の指導教員は、実習以前の学生に対して、消極的な印象を持っていたが、この薬局実習で、学生は将来の医療を担う薬剤師としての自覚を持ち、何事にも前向きな姿勢で取り組むことができるようになった。その成長は、目を見張るものであった。

### 【学生の自主性が向上する取り組み】

- ・ 「投薬チャレンジカード」という薬局が独自で作成したカードを学生に予め渡しておき、学生は自身が処方箋や薬歴を確認して「自分で投薬実践できるかな?」「投薬したい!」と思った処方箋にそのカードをつける。その処方箋の投薬担当になった薬剤師は、処方内容、患者さん、薬歴などから学生が実際に投薬できるか判断し、学生を指導する。学生が自主的に実習に取り組めるようなシステムが構築されていた。
- ・ 自主性を重んじたシステムにより積極的に投薬に挑戦することが出来、学生自身で服薬指導を組み立てることが出来るようになった。

### 【在宅医療】

新型コロナウイルスで在宅医療に関わる機会が少なかった学生が多かった中、実習開始初期のころから在宅医療に毎日同行し、在宅医療を深く学ぶことができた。

### 【実習施設のスタッフが協力して指導して頂いた】

指導薬剤師だけでなく、医療事務の方が協力し、レセプト等について詳しく教えて頂いた。

### 【地域チーム医療への参画】

在宅業務だけでなく、近隣クリニックの診察室での医師の診療の場に立ち会い、患者個々の病態と薬物療法について深く学ぶことができた。

### 【麻薬廃棄】

県庁薬務課職員の立会いの下、未調剤の麻薬廃棄作業を体験し、大学の講義ではイメージしづらい麻薬の管理について理解を深めることができた。

### 【在宅医療】

コロナ禍の状況であったが、在宅医療に同行させてくれた。特に、介護施設での訪問に、フレイル・サルコペニア対策における薬剤師活動の重要性を体感することができた。

### 【学生の知識レベルに合わせ実習を進めた事例】

学力に不安が有る学生に対し過度の要求をせず学生に合わせ、まず一つの疾患領域に絞り徐々に知識を増やすことで学生に自信を持たせ積極的に実習に参加する雰囲気を作った。

### 【様々な経歴・経験豊かな指導薬剤師】

常勤・非常勤薬剤師が 10 人近くいらっしゃり、経歴も病院薬剤師・MR・企業研究職等様々で、経験豊かな指導薬剤師にご指導いただきました。学生は自分の知識の乏しさを痛感し休日にも勉強するなど努力した結果、薬局内の薬については充分把握する事ができ自信に繋がった。実習中だけでなく、進路を考えるにも様々な職種の話聞くことができ参考になった。実習施設の雰囲気・人間関係が良く、大変充実した実習となった。

### 【学生の心理的状況にも配慮した実習方略の計画と実施】

実習の遂行に際して、若干の不安を感じる学生の心理に配慮した指導方法等を検討し指導して頂いた。

### 【学生の主体性を重んじつつ、サポートやフォローアップも手厚い実習指導】

服薬指導に行く際には、一通りのこと全てを学生に任せ実践できた。その際には、しっかり補助していただき、また、その後にはフィードバックもきちんとしていただき、手厚い実習指導を受けることができた。

### 【薬局と病院の連携】

4 病院とそのグループ薬局における WEB 合同発表会の開催により、薬局での実習状況やその実習内容が次に実習する病院で把握でき、また、病院で実習した内容も実習してきた薬局の指導薬剤師が把握できた。この事で 22 週を通した実施計画も立てやすくなった。



## 病院実習

### —薬物療法の実践—

#### 【外来化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

11 週の最初から最後まで、外来化学療法を受ける患者への薬学ケアを実践し、学習することができた。

#### 【化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

化学療法を受ける患者への薬学ケアを実践し、学習することができた。

### —医療連携の体験—

#### 【多職種カンファレンスによる患者との関わり】

退院時共同指導による多職種連携患者カンファレンスに同席し、病院内の医療従事者だけでなく地域の医療従事者ととも患者への関わりを体験することができた。

### —充実した実習環境と指導体制の構築—

#### 【病棟業務】

他職種と関わる様子を見ることができ学生も参加できた。病棟にて患者さんの様子を見続けることができ、その患者さんを見ながら疾患について自分で勉強するのみならず、医師からも病気や治療について教えて頂き理解が深まった。

#### 【実習部署のローテーション化による実習実施】

実習部署を「調剤」「無菌調剤」「病棟1」「病棟2」「病棟3」と5つに分け、学生も5つのグループに分け、2週間ずつローテーションする。最初の実習部署が調剤の学生もいるが、病棟の学生もいる。学生は最初戸惑うが、病棟での先輩薬剤師の活躍を見て、どんどん活性化し、学生の満足度も高かった。このような方法は、実習の順序が「薬局」⇒「病院」となったので可能になったのであろう。

#### 【病棟業務における患者に対する薬学ケアの実践】

- ・病棟業務において薬学ケアを実践し、学習することができた。臨床現場で患者への薬学的ケアを日々行い、チーム医療を実践する薬剤師の先生方の活躍を目のあたりにした。
- ・初回面談に伺った患者さんの退院を見届け喜びを感じることができた。
- ・カンファレンスやオペ見学など病院でしか体験できないことを体験させていただいた。

### 【病院内の多様な医療チームの活動に薬剤師の立場で参加し、医師や看護師等の医療スタッフと連携・協力して患者の治療目標や治療法を考え、患者の治療に積極的に参加する】

- ・小規模の病院ではあるが、病院長が医療を担う人材育成に力を入れており、他職種間のコミュニケーションも良くとれている。そのため病院の全スタッフで、臨床薬剤師を育てる施設となっている。特に、患者の薬物治療において、処方医に対し、薬剤師側から疑義照会や提案を行う場合、実習生であっても意見をよく聞き、必要があれば実施し、丁寧な説明をされた。また、薬局では、学生の自主性を尊重し、地域連携など医療現場で学び、実践する様々な機会が提供され、その都度、丁寧な指導やフォローされた。
- ・学生の自主性を尊重されたので、学生は、臨床実習に対し、非常に前向きな取り組みをすることができた。コロナ禍ではあったが、臨床実習で学び、習得したことを、指導薬剤師や医師、医療スタッフの指導や協力の下、多くの患者さんに実践し、自ら考えたことを患者の治療に反映させることもできた。医療現場での実習を終え、学生の感想文から、学生自身も大きな成長を自覚することができたと思われる。

### 【指導薬剤師がしっかりと学生に関わってくださり学生の成長が見られた】

実習中定期的に実習内容に関するレポート作成・実習報告など学生に調べ考える機会を与えそれに対して指導薬剤師からのフィードバックが適切になされた事で学生の成長がみられた。

### 【最終発表会の内容の充実について】

最終発表会では、1人の患者さんの症例報告が多いが、該当の病院では8疾患にどのように関わったかがよくわかる発表形式であった。

### 【毎週2例の処方解析・発表】

実習期間中、毎週2例の処方解析の課題が与えられ、1例発表する取り組み。負担に感じる実習生も多いが、しっかりと取り組み、高い評価を得た。

### 【チームカンファレンス】

コロナ禍であったが、制限なく学生のチームカンファレンスへの参加を許可していただいた。

### 【薬局と病院の連携】

4病院とそのグループ薬局におけるWEB合同発表会の開催により、薬局での実習状況やその実習内容が次に実習する病院で把握でき、また、病院で実習した内容も実習してきた薬局の指導薬剤師が把握できた。この事で22週を通した実施計画も立てやすくなった。

### 【複数の病棟および部署における多面的な学習につながった実習】

1週間ごとに異なる病棟を回ったが、そのローテーションの順番が外科から内科となっており、徐々に使う薬の種類が増えたので段階的に理解することができ、多くの疾患について学習できた。PET検査用放射性医薬品の調製や緊急救命室での心肺蘇生時における薬剤師の動きについて見ることができた。さらに腹膜透析、血液透析、エコーなど薬剤師が直接介入していないところも見ることができた。

**【治験の見学】**

当初、予定になかったが、治験センターの見学と治験診療の流れを教えて頂いた。初めて知る事が多く興味深かった。